

語り継ごう、明日へ。

歴史はいつも未来へのみちしるべです
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら
いつか来た道まで戻ってみましょう

ひと街じと

No. 17

二〇〇六年 秋(年四回発行)

発行：(社)印刷紙工

札幌市中央区南十五条西十八丁目

TEL(011)561-1597

編集：ひと街じと刊行会

札幌市中央区北一条西十七丁目

北海道不動産会館四階

(有)編集工房海内

TEL(011)633-1651



小春日和だね 冬支度は済んだかい

地球温暖化とかヒートアイランド現象とか難しいこととはともかく、昔はホントにしばれていたよなあ。で大変だったのが冬支度。ちょっと思い出してみませんか、どんなことやっていたか。

まずはストーブを出すことに始まって、家の内外に煙突を取り付け、窓に目張りして雪やツララをよける板を打ち付け、ニシン漬け、タクアン漬け、さらには毛系のセーターや手袋、靴下の編み直しなどなど。雪が多くて寒さも厳しい冬を迎えるのに、実にたくさん作業があったものです。お宅で今も続いていることはこのうちいくつあるでしょうか。

すべては衣食住が向上したからということに尽きるのでしょうか、よそから自家製のニシン漬けをいただいて大喜びする時代も、いささか寂しいですね。

元は石山郵便局だった「ぼすとかん」



札幌軟石のふるさと

消え行く歴史的な建物
採石現場は芸術空間に

支笏湖をつくった火山活動の噴出物だから北海道でしか産出しない札幌軟石。百八十万都市・札幌の第一次産品でもありません。温かみのある独特の風合いが特徴ですが、いまではごく一部で使われているだけ。その新旧が同居する石山地区を歩いてみました。



かつての採石場跡が芸術空間に変身した石山緑地のネガティブマウンド

札

幌市南区石山といえば、誰でも知っているかつての軟石の産地。でもそれがどんな特徴のあるものか、知っている人は少ないかもしれません。札幌や小樽ではごく普通の建材でしたから、見過ごしてきたというのが本当のところでしょう。札幌軟石の歴史は古く、明治四年（二八七二）、開拓使長官・黒田清隆がアメリカから招いた開拓顧問団の発見したものです。学問的には支笏熔



昭和25年頃、南区真駒内柏丘1丁目での採石風景（札幌市写真ライブラリー提供）



土台に札幌軟石が残る石山商工組合の建物。現存する最古の軟石造札幌南消防署石山分団



まさに石山。まだこんなに「原材料」が……

結凝灰岩という火山の噴出物。加工しやすく、適度の保温・保湿性に優れているため、建物や倉庫、サイロ、煙筒などに広く利用されました。

しかし建築様式や素材の変遷とともに衰退し、今では札幌、小樽を中心にその建物が残るだけ。代表的なものには札幌市資料館（旧札幌控訴院）や小樽運河の倉庫群です。古い家並みの町では家屋の基礎材、門柱などに見られます。

もちろんお隣元の石山地区を散策すれば見つけることが出来ますが、都市化の波で年々姿を消していつているのが現状です。それとすぐにわかるのは、国道沿いの「ぼすとかん」と「札幌南消防署石山分団」。前者は元の石山郵便局で、いかにも軟石造らしいがっしりとしたたたずまいです。また後者は現存する最古の軟石建築（大正二二）だそうです。建

て替えによる一階部分のシャッターが残念ではありません。

軟石の採掘は現在、南区常盤でわずかに行われているだけですが、石山の採掘現場が芸術空間に生まれ変わったのが、ぼすとかんから山側に一キロ程入ったところにある石山緑地の「ネガティブマウンド」です。巨大な自然の石の屏風を背景にした軟石の円形の階段がユニークで、イベントや演劇の舞台などとしても利用されています。

ちなみにぼすとかんの国道をはさんで向かい側にある石山商工組合の建物は、定山溪鉄道・石切山駅舎だったもの。建物土台に見えるのは札幌軟石です。馬車で石を運んだことに由来する現在の石山通り、そしてそれが鉄道輸送へと変わり、その定鉄も今はなくと、石にまつわる様々な時の流れがありました。

※参考文獻／郷土誌さつぽろ石山百年の歩み（昭和五十年、石山開基百年記念実行委員会）
〔北の建物散策〕北海道新聞社

時間という見えない存在を、目に見えるものにしてくれる装置——時計。開店したのは三年前なのに、ずっと以前からあったような錯覚にとらわれるのは、そんな時計の魔力かもしれません。

店主の田中豊和さん（四〇）と時計とのかかわりは、骨董好きだった父親が単身赴任先の東京から持ち帰る土産に混じって、必ず古時計があったことに始まりです。当初は書店や飲食店などを経営していた田中さんも次第にその影響を受け、

世に骨董店は数々あれど、はたまた時計店もたくさんあるけれど、古時計の専門店となるとなかなか見つからないでしょう。店主自ら「北日本ではウチ一軒では」というコレクションを見るだけでも楽しい店を見つけました。

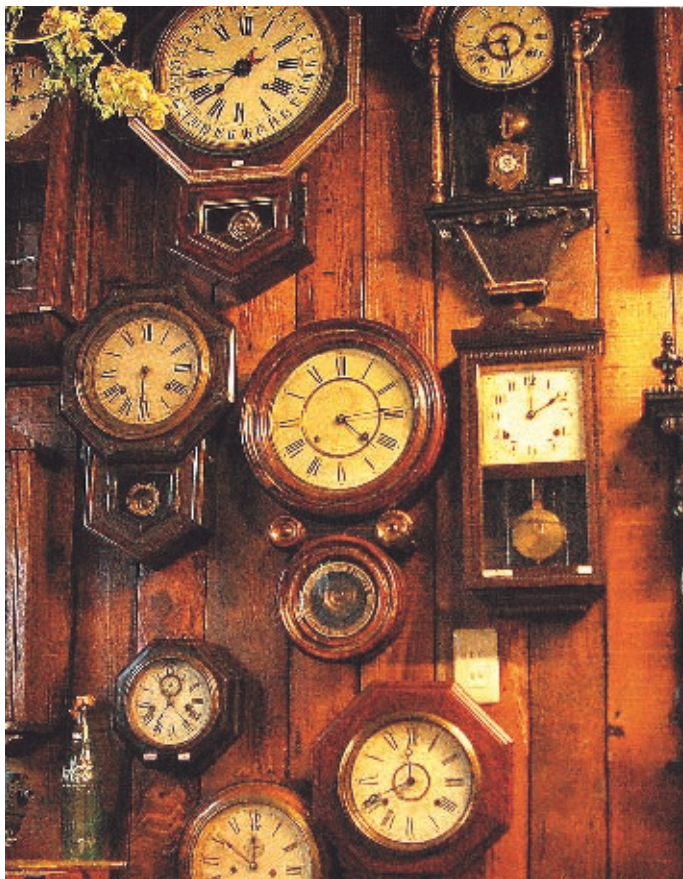
命を吹き込まれて
新しいあるじ待つ

古時計たち。



計専門の骨董店には、国内外の置時計と掛け時計合わせて三百七十点ほどが所狭しと並んでいます。古いのでは一八四〇年代のものから、国産は大正時代の時計が多いそうです。

こちらが普通の骨董店と違うのは、すべて分解して修理して動くようにして売っていること。もちろん外側も古き良



古色蒼然とした年代物の時計たち。見ているだけで時のたつのを忘れます

すべて修理して売る職人氣質もきらり



講堂かどこか広い場所で使われていたのでしょうか

ずらりと並んだ置き時計
手に取ってみて
時間の重さも確かめて——

き味わいを損なわないように直して、です。したがって値段のほうも「正直なところよそよりも安くはありません」（田中さん）。といっても置時計は三千円から、掛け時計も一万円ほどありますから、決して手の出ない値段ではないでしょう。

若い女性はインテリアの小物として求めていくそうですし、ホームページを見て道外からのゴルフや出張のついでに寄っていく人もいます。また家に眠っていた親の形見の古時計を修理してあげるとても感謝されたり。時計を巡る人との楽しい出会いもあります。

自慢のコレクションを聞いたところ、公開したくないという返事。「マニアがやってきてお金はいくらでも出さずから売ってくれという話になるのです。右から左へというような商売はしたくなくて」（田中さん）。あくまでも古時計に再び命を吹き込んだときの喜びを大切にする職人でもあります。



時計の修理は夜
白衣を着て——
店主の田中豊和さん



住宅街にあるので
わかりにくいかも
この看板を目印

がんばるマチの本屋さん

駅前通りやまち一番の繁華街にあっても
転廃業を余儀なくされている本屋さんの現実
買う側としては店がなくなる度に
頭の中の本屋地図を描き直さなければなりません
まだまだ地域で頑張っている本屋さんのことも
忘れてはいけません

流通の壁越えて

地域密着に

知恵絞る。

「経営悪化」が86%

この十月、日本書店商業組合連
合会（日書連、東京）が考案
した新しい販売方式による本が売り
出されます。その方法とは、出版社
が書店からの注文に基づいて印刷部
数を決め、希望部数がすべて書店に
納められるというもの。

このような方式が考えられた背景
には、消費者にはわかりにくい取次
店・小売書店という流通ネットワー
クがあり、規模の小さな本屋さん
は新刊本が入って来なかったり、希
望する部数が揃わなかったりとい
うことが多いからです。

これを読め！コーナー



フェア



リスト本も人気

しかし振り返ってみると、かつて
は近所の商店街や地元の駅前には必
ず本屋さんがあり、月刊誌などはい
つもそこで買っていたものです。そ
れがいつの間にか大型店やナシヨナ
ルブランドのチェーン店ばかりに

なってしまう。昭和三十年代から右肩上がりであ
ってきただけの伸びがゼロ成長へ転じたの
が同四十八年の第一次オイルショック。この頃から大型書店や郊外店の
登場、大手の地方進出が始まり、札幌市も人口増に伴って競合店が増加
してきます。

昭和三十年代から右肩上がりであ
ってきただけの伸びがゼロ成長へ転じたの
が同四十八年の第一次オイルショック。この頃から大型書店や郊外店の
登場、大手の地方進出が始まり、札幌市も人口増に伴って競合店が増加
してきます。

昭和三十年代から右肩上がりであ
ってきただけの伸びがゼロ成長へ転じたの
が同四十八年の第一次オイルショック。この頃から大型書店や郊外店の
登場、大手の地方進出が始まり、札幌市も人口増に伴って競合店が増加
してきます。

全国に広がる企画

日書連が昨年、全国の組合員書店
を対象に行ったアンケートでは、こ
数年の経営状態が「悪くなった」
「やや悪くなった」という店は合わ
せても八六%も。その原因の一位は
「客数の減少」で八四%。周辺環境
の変化やネット人口の増加などが大
きく影響していることは想像に難く
ありません。

んな状況の中で三年前、地下
鉄東西線の延長で売り上げが
激減したという久住社長が、失敗し
たら廃業も止むを得ないという背水
の陣で臨んだのが「なぜだ?! 売れ
ない文庫フェア」です。

売れない本の中にも良い本はたく
さんある、売れなければそれも消え
ていく——時あたかも中心部の老舗
書店が廃業するという知らせに、マ
チの本屋が出来ることがないかと知
恵を絞った結果でした。集めた売れ
ない文庫本は千五百点。幸い多くの
マスコミも取り上げてくれ、店内に
お客があふれんばかりの盛況。大き
く売り上げを伸ばすことに成功した
のです。今年はその第四弾、当初の
三倍以上の五千点を揃えています。

フェアの成功で九州は佐賀県の
メディアにまで出ているという全国
区の久住社長が「なぜだ」の翌年
に発案したのが「本屋のおやじのお
せっかい 中学生はこれを読め！」



路面店の味を残すいわた書店。健康・医学関連の本を集めて地域密着

フェア。店に中学生がめつきり減つ
たのはなぜ？ それは本屋に中学生
向けの本がないから、ということだ
全道の組合員書店に呼びかけたこと
ろ、これがまたまた話題に。三年目
の今年も静岡県や愛知県など全国に
広がっています。

個性は競合しない

その地域密着店として道書店組
合連合会で聞いたうわさの店
が砂川市のいわた書店（西一北二）
まず目を引いたのは、店に入って



また滝川市の新聞販売店と提携しての本の配達。現在は中断している砂川地域大学の運営もここならでは。後者は地域の仲間でお金を出し合って開催する文化講演会で、年に

※再販制 再販売価格維持が、商品の信用維持や価格統制のための取組。販売業者は生産者があらかじめ指定した卸小売価格以下では販売しないという契約。公取委が指定する商品に限り認められています。



クリスマススペシャルはいつもより大きな舞台で

クリスマススペシャルはいつもより大きな舞台でいるでしょうか。場所によつては、買い物客の流れを待っているだけでは大変でしょう。札幌市東区のスーパー内で、幼児たちに読み聞かせや紙芝居を続けて七年

くすみ書房の「中学生は



同じく「売れない文庫」

七年続く読み聞かせ

創業は昭和四十三年。人口二万人の町に、これまでに三度ほど大型店の出店・撤退がありました。今は落ち着いているのか。「景気に関係なく店に来てくれる客を大事にしたいし、街に本屋がなくなったら困る人がいる限り続けたい」という岩田社長。信念は「個性に競合はない」ということです。

四、五回の開催が八年も続きました。筑紫哲也や立松和平といった講師の面々に、多いときで五百人もの聴衆が集まったそうです。

第二土曜日に開かれる「おはなしスタジオ」がこの十月でなんと七十六回目。企画運営にあたるのは榊喜子さん、横山由紀子さん、箕浦聖子さんの女性三人で、会場は店内の書棚を移動しての即席です。

絵本は時期にあったテーマで二冊選び、一冊は臨場感豊かに読み聞かせ、もう一冊は大きな絵に描き直して紙芝居に。十月はハロウィンにちなんだ魔女の絵本と、秋の夜長につなげた夢の紙芝居という趣向です。

すみ書房やわた書店はいわゆる路面店なので人目に付く企画も打ち出しやすいでしょうが、スーパーなどに同居しているところではどうしているでしょうか。場所によつては、買い物客の流れを待っているだけでは大変でしょう。

接客やレジなどの仕事もある中、毎月の企画、準備が大変ですが、多いときで子供が三、四十人、付き添いのお母さんたちも入ると八十人にもなる人気企画。「人の話をちゃんと座って聞くようになった」などと評判を聞けばやりがいもあるというもの。「毎回プレゼントしている手作りのお土産も喜ばれています」と言う箕浦さん。クリスマスや春の入園期などには、特大の紙芝居スペシャルもあるそうです。

幼児期の読み聞かせの大切なことは知られていますが、世はパソコン、携帯電話の時代。果たして活字や紙、本に希望はあるのでしょうか。

久住社長によりまして、五十代以上の人には知識・教養が下地にあるし、二十代半ばまでは学校での「朝の読書運動」が定着して十数年たつので悲観してはいけないとのこと。大学生協での本の売り上げ増加も伝えられているそうです。

そしていまくすみ書房が取り組んでいること。それは英会話や韓国語会話、太極拳の講座、国語教室、朗読の会などの開催です。つまり長年積み重ねた信用をベースとして、地域の文化活動の核となること。地域密着から地域貢献への移行です。言葉は少々堅苦しいかもしれませんが、いわた書店にしても明正堂書店元町店にしても、地域と一体となつた企画が細く長く続くこと、それがマチの書店の使命ということかもしれません。

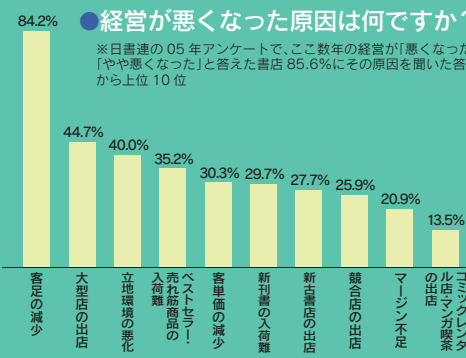
●どんな理由で書店を選んでいますか？

※日書連 06年4月「世界・本の日」サンジョルティの日」にちなんだ読書アンケートから。インターネット、携帯サイトによる2687件の答え

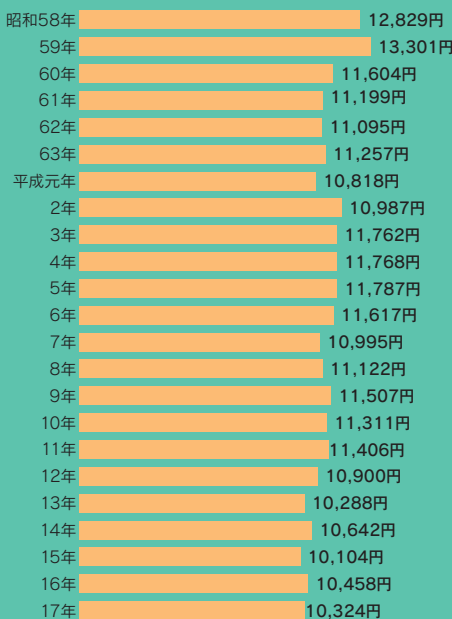
① 品揃えが豊富	91.3%	⑨ 広告で宣伝している本がすぐわかる	15.5%
② 探したい本が見つかりやすい	66.5%	⑩ 本の書評が店内に掲示してある	14.1%
③ 交通の便がいい	60.9%	⑪ 新刊本の解説がしてある	12.5%
④ 本の配置がわかりやすい	57.2%	⑫ 書店員の本に対する知識が豊富	10.0%
⑤ 店内が落ち着いている	38.9%	⑬ 書店の推薦図書がわかりやすい	7.0%
⑥ 駐車場が広い	31.0%	⑭ 開店時間が早い	6.3%
⑦ 閉店時間が遅い	28.6%	⑮ その他	6.2%
⑧ 専門書が充実している	26.6%		

●経営が悪くなった原因は何ですか？

※日書連の05年アンケートで、「ここ数年の経営が「悪くなった」「やや悪くなった」と答えた書店85.6%にその原因を聞いた答えから上位10位



●1世帯当たり書籍にどのくらいお金を使っているか？



※総理府統計局・平成17年家計調査年報 1世帯当たり年間の品目別支出金額、購入数量及び平均価格から。平成11年以前は農林漁業世帯除く。同12年以降は含む

来た道、 行く道。

様々な先達がいるからこそ
二十一世紀があるんだよ——
スローコミュニケーションを求めて。

本欄への自薦他薦を
お待ちしております。

久 保吉正さん(五二) 喜三郎さん(五〇)
兄弟で三代目ののれんを守る桐た
んす専門店。創業した昭和九年(一九三四)

当時の業界はどんな状況だったのか、さつ
ぼろ文庫27「職人物語」に次のような記
述があります。

家具にはダンス、茶ダンスなどの箱
物と、椅子物に大きく分けられる。明
治以降、札幌の家具は全体的に「こつ
い」感じの実用性を重視したものであつ
た。しかし、昭和七年札幌に三越デパー
トが進出したところから、かつての実用
性一点張りから、装飾性を加味した家
具へと大きく変化した。これは札幌家
具の大変革であった——
祖父が薄野で起こしたたんすの製造・

卸専門店も、
こうした流

れに乗って

札幌の家具

に新風を吹

き込んだこ

とは、想像

に難くない

でしょう。というのも祖父は新潟県加茂

市の職人。加茂たんすといえは、今でも

桐たんすの全国生産の七割を占めるほど

評価が高いものだからです。

喜三郎さんの話では、祖父は加茂での

事業に失敗して、職人を引き連れて札幌

に新天地を求めてきたとのことですが、

昭和三十年ころまでは戦後復興の景気も

あつて繁盛したそうです。しかしやがて



お宅にありませんか、左下のようなたんす。加茂たんすの伝統を生かして補修、塗り直しを。



久保家具店
札幌市手稲区富丘3条3丁目7-1 TEL(011)683-9625

来る洋風家具の潮流に抗しきれず、祖父
は新潟へ帰ることに。その後、父が東区
で家具店を開業して二十五年ほど。公共
工事のため昭和五十九年に現在地に移つ
てから「もはや町の家具屋では継続は無
理」(喜三郎さん)と、たんす修理を中心
に営業を続けてきました。

さて、お宅に桐たんすに限らず和風の
収納家具は何本がありますか。あるとす
ればそれは、親御さんの形見か奥さんが
嫁入りのときに持ってきたものか——。

「昔は婚礼家具といえは桐たんす。でも

久保吉正さん 喜三郎さん——久保家具店(札幌市)

「もつたいたない」の時代に 修理で受け継ぐ 加茂たんすの伝統



上/久保吉正さん
下/久保喜三郎さん

そもそも北海道には婚礼家具というもの
がなかったのですから」と言うのは吉正
さん。加えて現代は、マンションはドレ
ッサーや食器棚などが最初からはめ込まれ
ており、一戸建てでも家具といえはリビ
ングやダイニングのもの。

「だいたい、物をたたくで仕舞うという
ことをしないでしょ。壁に掛けたりベッ
ドの上に置いたり。たんすの中に入れて
いないんですよ」(吉正さん)。和風家具の

需要は減る
一方。それ
だけに、も
う捨てても
よいのでは
と思われる
古びたたん
すの修理を
依頼される
とうれしく
なるそうです。

喜三郎さんによると、たんす修理には

それほど大掛かりな工
程はなく、欠けや割れ
へこみ、隙間などの補
修と、黒ずみや汚れな
どの塗り直しをして新
品近くに復元します。

「二人とも積極的
に後を継ごうという気持
ちはなかった」のに長
兄が本州へ就職。吉正さんは「親の背中
を見てきたから、あまりよい商売ではな
いな」と思いつつ店を手伝いながら三十
年がたちました。脱サラしてこの道に入
った喜三郎さんも、いまではたんすをひと
目見ただけでいつ頃製造されたものかわ
かるまでに。

世はリサイクル時代、もつたいたないが
叫ばれる時代ですが、時には置くとこ
ろがなくなつたので引き取ってほしいとい
う依頼も。「桐たんすイコール和服とい
うイメージも強いのですが、洋服の収納に
も使えます」(喜三郎さん)。桐たんすの
寿命二百年を持たせるには六、七十年に一
回の修理・塗り替えをせよ。



新品同様に生まれ変わった年代物のたんす

道具で

道草30年

貝を拾い集めて四十年。そのきっかけは初めて訪れた土地の砂浜がまだおびただしい数の貝殻で覆われていた頃のこと

坂一敬

レトロスペース坂会館・館長（坂東養食品 開発部長）

※レトロスペース隣接の菓子売場には、館長の貝のコレクションが展示されています（編集部）

場 所は千葉の富津。東京に来たばかりで、西も東もわからない。先輩に連れられて、大学の寮で朝から夕方までの理論合宿。学連用語の混じる内容は、全然わからない。言葉が耳を通り過ぎるだけ。そして最後の夜、コンパがあった。

自己紹介などしないから、どこかの学校の何年生かもわからないけれど、インターやワルシヤワ労働歌を原語で歌う上級生を見ると物凄く差が感じられ、味もわからない酒を口に運んでいた。

私の横に座っていた人が白楽天の長恨歌をやりますと言って立ち上がり、四分の一暗唱したところからつまづいてしまい先に進めない。するとどうした明大、そこまでかと野次が飛ぶ。

早稲田になぞ言われたくないのと、二日間沈黙していた反動と酒の勢もあり「明大文学部、代ります」と言って最後の「天は長く地は久しきも」までをよどみなくやってみせた。「イギナシ」と声をあげてくれた人がいた。ちょっと誇らしい気分。

コンパが終了後は休むだけと思

青春の富津岬、そして桜貝。



いブーツとしていたら、私の肩をたたく人がいた。あの「イギナシ」のお姉さんだ。曰く「文学部、泳ぎに行こう」。私がカナヅチで海パンも持っていないと言うと、いからついて来いと言う。

一年生をゴミ、二年生を奴隸、三年生を平民、四年生を天皇、五年以上を神様と言って、一年違つと物凄く差があった当時のこと、そう言われると否も応もない。バスタオルを持って彼女の後からついて行った。

外は月の光で結構明るく、砂浜は貝殻で埋まっていた。ところどころにピンク色の小さな貝が見受けられた。生まれて初めて見る貝なので彼女に聞くと桜貝だと言った。砂が盛り上がり丘になった所まで来ると彼女は立ち止まり服を脱いで、それを私の手に残して海に向

かって歩いて行った。

その白い後ろ姿を見ながら、私は「東京に来たんだそう強く思った。田舎の札幌ではこんな人には絶対会えないし、こんなことは絶対に起こり得ない。新しい時代が東京で始まりつつあるのだと思つた。しばらくしてその人は濡れながら帰ってきた。バスタオルに腰をおろし、髪を拭きながら「文学部、一首いけ」と言う。

富津岬 裸で泳ぐ、かの女性の後姿に新時代を見る「アンコール」。

富津岬 月の光に輝らされる白き裸身は、自由の証し。帰り道、その人は、着くまでに乾くと言って服を私にあずけたまま歩き出した。途中「もう一首いこう」と言う。

富津岬 寄せては返す白波の 砂上に淡き桜貝

富津岬 月の光に照らされて砂上に咲ける 桜貝 踏むを恐れて 前に進めず

歌の本を沢山読んでいて良かったと思った。このくらいの芸はできるのだから。

寮に近付いた頃、明日は朝食の後、現地解散なのだから残らないかと言う。私が一瞬躊躇したので予定でもあるのかと聞くから、何もないけれど東京までどうやって帰つたらよいかわからないと言うと、新宿でもどこでも送ってあげると言う。「残ります」そう答えた。

翌日、皆を見送つた後、寮のおばさんにお昼のおにぎりを作ってもらい岬を二人して歩いた。

戦争が終つてもここはまだ開発の手が入っていないので明治、大正と四十年かけ延べ五十万人を動員して軍が作り上げた日本最大という富津要塞が、二人の前に広がっていた。人が来ないから海は青く、浜は砂が見えないくらい貝で一杯、この時拾つた桜貝は今も手元に置いてある。

富津岬 寄せては返す白波の 砂上に淡き桜貝

富津岬 寄せては返す白波の 砂上に淡き桜貝

本づくり相談室

会社も相談に乗ってくれます。おおよその値段を記しておきますと、B6判で本文が96ページ、並製本で100部の場合で約33万円（句集や歌集は別）。同じくA5判なら35万円ということですから。これを上製本にするならどちらも6万円ほどの上乗せとなります。*

※表紙1色印刷、見返しは印刷なし、トピラ1色で本文と同じ紙、本文は書籍用紙70k相当、1段組、カバーは2色印刷

ことです。安くするもう一つの方法は、自分で出来るところは自分でやるということ。パソコンで原稿を打ち込むと、印刷会社にやってもらうよりは安くなります。イラストや写真を自前にする方法もあります。

手っ取り早いのは、こんな本をつくりたいという見本を印刷会社に見せて値段を聞き、自分の予算にまでページ数や部数などを減らしていくことでしょう。限られた予算ですから、印刷

とかA5とか四六判とかいった判型、ページ数、製本、部数の4つです。

判型が大きくなれば高くなりますし、ページ数や部数が増え

いくらくらいかかるのですか—。

ても同様です。製本については硬い表紙（布クロス張りや紙張り）の上製本が高く、軟らかな表紙の並製本が安くなります。予算の範囲内でこれらを調整する

Q あまり予算がない。安く上げる方法がありますか。

原稿もかなり進んで体裁などに思いをめぐらせています。判型や製本の仕方でも値段が違って行くのでしょね。

A 本文96ページ、並製本100部で33万円くらいから

本の制作費を決める要素はB6

何かに追い立てられるように過ぎていく毎日。いつもそこにある時計に、足を止めることを忘れていませんか。



古き時代とバブルの記憶。

どんなに姿を変えても、昔からあるものにはその味わいが残るものです。場所は小樽市稲穂一丁目のサンモール一番街。元の小樽銀座商店街が平成二年、開閉式アーケード街に変身したものです。その時に設置されたのがこの時計ですが、デザインに何かしら懐かしさが漂うのは、バブル期のものでしょうか。そのバブル終焉の平成三年にオープンした同じく一番街の再開発ビルのキーテナント、丸井今井小樽店が昨年十月、百十五年の歴史に終止符を打ったのは記憶に新しいところ。歴史を語る時計として長く記憶されるのかもしれませんが。



アーケード街

出版 News

「主の良くしてくれれたことを
何一つ忘れるな 五十年史」

北栄キリスト教会



(A4版176ページ)

幌市北区新琴似七―一二の創立五十周年記念誌です。タイトルは聖書の詩篇一〇三篇二節から。

序、祝辞、歴史、特集、現在の組織の動き、証し集、資料という多岐にわたる構成ですが、年表の記述が詳細なこと、たくさんの方が原稿を寄せていることが特徴です。特に寄稿した人は、文章の長短はあっても三十人にも及び、手作りの苦労が伝わってきます。

また編集委員による文字入力、資料収集・作成、パソコン編集なども同様です。写真類も多く、改めて日ごろからの記録、資料類の保存の大切さがわかります。

編集室

連日ラジオに耳を傾けて、北海道日本ハムファイターズの試合を聴いていた方も多いことでしょう。そして思わぬラジオの効用を再確認した方もいたかもしれません。ながらができること、想像力が働くこと、寝床の中でもOKなこと――ついでに昔前の一家だんらんも思い出しませんでしたか。時代はほんとにゆっくりしていたことです。

「キャリアマトリックス」という情報データベースがインターネットで公開されています。五百を超える職業の、仕事の内容や賃金、労働時間、就職方法などが載っているいわば「職の百科辞典」。サラリーマンだけでなく手仕事、職人の世界までありますから、中高生にも参考になるでしょう。広く世間を見てほしいものです。

●自分史セミナーの「出前」します
印刷紙工では毎年、定期的に本



づくり講座を開いています。都合で来られなかったり、お仲間だけで話を聞きたいという人のために、本づくりセミナーの出前を行っております。三人以上のお集まりで、会場をご用意いただければ、日時を相談の上、編集者と印刷担当者がお伺いして、いろいろとアドバイスをさせていただきます。

●記念誌づくりもお手伝い
企業や団体の節目の設立周年(二十周年、三十周年...)にちなんだ記念誌づくりもお手伝いいたします。企画から承ります。

●小紙をお送りします
小紙をご希望の方には、定期的に無料でお送りしております。印刷紙工までお申し込みを。